翻　訳

【史料】近代マルタにおける産業復興に向けた特長について

――N・ザミット（編）『マルタとその産業』（1886年）（4）――

水　田　大　紀

〔文献解題〕

本稿は、『歴史学部論集』第７、9-10号に引き続き、1886年に出版された『マルタとその産業』の第4-5、8-10章を訳出したものである。訳出の目的や同書の書誌情報など詳細については、前掲号までの文献解題を参照されたい。

今回の訳出箇所では、前掲論稿まで述べてきた19世紀後半のマルタ産業の状況とその障害を踏まえ、その解決策として、当時のマルタにおける教育や文芸の特長が解説されている。特に文芸に関しては、マルタ人芸術家たちの活躍や島外への影響を念頭においた記述がなされており、直轄植民地としてのマルタの有望さとマルタ人の有能さを強調することで、編集者たちが宗主国イギリスの関心を買おうとする様子をみてとることができる。

なお本稿内の註は原著のものであり、史料中の［　］内は訳者による付記である。

【史料翻訳】

第４章　産業復興のための手段

マルタ国民の活力は、我々が言及してきた制限によって損なわれたり、我々が不満を述べてきた狭い領域内に置かれているかの如く閉じ込められたりしてはいるけれども、現在の無為の状態を甘んじて受け入れるようには思われない。例え一部は麻痺し休止状態になっているといえども、今もなおそれは生きている証を提供し、それ自身の強靱さと価値の意識を素早く呼び覚ます。そのこと自体の欠点を自覚もしているので、その対策に活力の繋がりを広げておきたいと感じるのであり、いまだに克服されねばならない障害はあるものの、その挑戦を成功に導くための手段が不足しているわけではないだろう。

マルタの産業の発達を妨げている諸問題を克服するのに必要な手段は、既に国中で採用され

つつある。この最も重要な実用的論点については、既に世論でも一致をみている。当面の間、無益な議論を全て脇において、人々は最も注目すべき実り豊かな生活の特徴について、新しく、有益な考えをめぐらしつつあり、社会のいと賢き人々によって、それは無駄な論争や単なる机上の空論での悪ふざけなどよりも、もっと有益なことであると判断されている。有益な忠告や激励が産業の利益や国全体の繁栄のために惜しみなく与えられているのである。

気立てがよく、賢明で愛国心の強い国民の助力と快諾があるので、これまでも一種の産業社会を形成するための努力が行われてきた。この社会への努力に与える精神的な援助のほかにも、政府は補助金という有形の支援も行っている。同時に、最も有用かつ賞賛に値する目標に向け、農業組合は農村経済の問題に関して、それがどんな知識や意見であっても、それらを有する国民全体を結束させている。

31年前、この愛国的な社会は国のために、この島国の総督であった故サー・ウィリアム・リード（Sir William Reid）の賛助で、農業博覧会を導入した。我が国の農民たちの感謝の心には、永遠に彼の思い出が残り続けるであろう。年に二度、我が農業組合は最高品質の農産物に賞を授けている。文芸作品と商業を奨励するためには別の協会が設立され、こちらもまた博覧会を開催し、賞を与えている。後者の協会は21年前に、非常に成功裡に終わった地元産業の一般展示会を開催し[9]、その結果、この国の様々な種類の技術の修養が大いに進展した。政府の援助を受けたとはいえ、我が母国の産業が国際大文化展に参加でき、慎ましくも自国の物産がハイド・パークとシャンドマルスでの大博覧会に出品されたことは、この協会の熱意によるものであった。そして今日、特別委員会の協力に加えて当時と同じ政府の厚情により、イングランドの首都で1886年に開催される、多数からなるイギリス帝国領植民地・保護領の様々な生産物に関する博覧会に、我々は再び招待されている。

我が国の産業に対するこれらの時宜を得た支援は結果が目覚ましいものとはいえないまでも、国民の間で慣れ親しまれている技術に好影響を及ぼしてきたことは否定できまいし、その歩みは遅々としたものであれ、その原因について我々は既に考慮をめぐらせている。

今話題にしている有益な協力の恩恵を取り捨てたいわけではないので、我々は思い切って、他者の援助をあてにし、支援のために公庫に頼るよりも、おそらく自立的産業の原則を国家が採用することの方がより公益を図ることに繋がるのでは、と主張してみることにしよう。なぜなら国民が自身の諸力とその労働の生産力を信頼することに慣れる以上に、国家の利益となることはないだろうから。この手段こそが、活動的な労働に向けた自発的な突破口になるだろうし、政府が地元産業に与えることができる最良の支援は間違いなく、それに向けての明確な道筋を示し、あるいは国産品に保護を拡大するという手段であろう。

第５章　教育と産業

さらに我が国の産業に対する有益な刺激は人々への学校教育からもたらされることが望ましい。そして、それは彼らが必要とするかもしれない教育を提供するだけでなく、無学によって形成され助長された教育への先入観を取り除くことをも教えることを通じてなされるべきであろう。

例えば教育が役立つのは、潜在能力を引き出すことだけでなく、個人の権利に関するあらゆる関心を惹起し、生活状況を改善するための手段に目を向けさせると同時に、人々を習慣づけることにおいてである。

過去を非難したり、どんな驚くべき進歩でももたらす現在に期待したりしようと試みるのを除いて、我々が確信するのは、かつては民衆教育が産業的な発展のために国の活力と才能を準備できていたことである。しかし学校教育（ほとんど文学のみの）は実際のところ、産業のニーズに対して利用しがたく、そのことが我々に思考と言語の正しい整理だけでなく、専門教育かそれに匹敵する教育を要望させている。もし生徒が芸術の最初の基本と並んで、文学の初歩に習熟しようとするものだったなら、民衆の知能に関する現在の教育の有益な効果は、全くもって有用とされていたかもしれない。

学習という骨折り仕事が目先の利益によって、いかほど埋め合わされるかはわからないので、仮にこの文明化の手段を適用された階級が今から学ぶことにある種の無関心をみせたとしても、驚きの原因とはならないであろう。今まで固有の書き言葉がほぼなく、イタリア語を話すのは上流階級のみで、英語は商業や公の通信の場で使用されるだけの、そして幼い頃から肉体労働者として子供を無理に働かせる貧困層がよく集まってくる小学校を持っているような、できることの範囲が限られた我が国では、学習で一足飛びの進歩を成し遂げたり、学校が意図する利得を最大限に引き出したりすることを期待することはできないのである。そうはいっても、大半の人々の間で既に起こっている著しい進歩を否定したいわけではないし、無学はゆっくりと、だが徐々に姿を消しつつあるので、やがては現在の教育制度の有益な効果が大いに感じられるようになることを我々は確信している。官庁による統計では、公教育の問題に顕著な前進がみられており[10]、積極的かつ不撓不屈の努力や、奨励産業の確固とした目的、我が国の子供たちの心に実用的な知識の最初の一滴を徐々に染み込ませるのに足る、民衆教育というシンプルな制度への援助のおかげで、ついには下層階級の無学と、それとともにある我が国の産業の進歩を大きく邪魔する民衆の先入観は消滅するだろうという確信を、我々は共有している。

初等教育についてはここまでとしておく。

高等教育に関しては、この国の産業とはごくわずかに接するのみである。我々にとって科学と文学の教育は、国家の生産的で有益な産業に、非常に不確かで曖昧に影響を与えるだけだと考えられている。我々の間では、芸術、または様々な生産的産業、近代産業において大いに重

視されている化学や、医療の実践のみに活用されている植物学、動物学のような、精密で実学的な科学に技術的な応用をする場合を除いて、科学は純粋に学問的な習得として奨励されている。しかし文学は非生産的で感傷的な利点しかないものであり、文芸作品との繋がりさえほとんどない。さらにここで話題にしている高等教育は、その周囲で勤労的かつ生産的に活動する人々のグループの中で存続する、特権階級の継承物に等しい。我々の社会における階層秩序では、この少数の個人がある種の必要な寄生者を形成しており、人々の身体的、倫理的欠点を管理・指導する際には、彼らこそが社会における少数の思考者となる。

相応に精密に設計されるか、あるいは初等教育に続く課程として継続的に行われる技術教育は、前述の通り、いまだ大いに必要な実践と方法論を労働者階級に普及させる、効果的で直接的な手段になるだろう。仮に訓練学校が職工のために設立され、法律的に徒弟にとっての義務とされたとしても、公に彼らを職業訓練のために入学させる以前にその適性を正式に確認するため、我らの技術製品の信用を速やかに高め、それに刺激を与える製品に、急速な発展がすぐに注意を向けることになるのは疑いようがない。ただし、いかなる種類の指導または公的な後援もないのであれば、それには相当の時間が必要となるのもまた確かである。

第 8 章　一般的な職業――考慮すべき点について

この国の各産業の発達を何がしか妨げている障害については既に詳しく説明したので、ここからは、我が国の職工たちがもつ腕前を列挙した後、一般的な職業の向上と進歩について、幾つかの所見を加えることにしよう。

当然のことながら、思い通りに使える手段や求められる成果を考慮すれば、建築の技術や機械類への順応に関して、我が国の技術者は疑いようもなく、非常に高い技術力を備えている。我々は彼の能力を過大視することを望みはしないが、彼が特別な素質を備えていることは認められるべきであり、それが不十分な手段や島国という立地条件をも埋め合わせている。近代産業の大工場での職業のために設けられた、様々な施設の不足を天賦の才で埋め合わせるために、技術者たちはあらゆる職種をこなしてきた。そして仮に種々の製品が投機的で有益な企てとして以上に、彼の技術と能力の単なる見本や試作品として世に出されたとしても、それは彼が悪いわけではない。島内で大規模な産業奨励を続けることに価値はあるが、幾つかの職業は販売のために行われているわけではない。そのため商売不振の際にさえ、技術者は彼が授けられた天賦の才を間違いなく証明してみせる。金銭的な利益が生じない場合、そのような職業は無用とみなされるかもしれないが、一方で最も精緻で上品な職業が手本として適例と示されていることは認めねばならない。またそれ自体ではマルタの物質的な成功と直接の関係はないけれども、それらの作品は展示会場を立派に満たすことができたのである。このように職業の訓練は、それを通じて未熟練職の人々が生計を立てる方法を見つける一助となる。では、敢えて問うの

だが、これらの方法はどこで育まれてきたのか？数多くの独立した作業場から成るマルタの産業では、正確には大規模製造業と呼びうる工場は、たった２つか３つにすぎない。現状では熟練で有能な我が国の技術者のほとんどが王立作業場で働けていないので、今後、工場は間違いなく数をさらに増やしていくだろうし、継続的な雇用と定率の俸給への期待感のおかげで、彼らが自然にそちらを選ぶとも考えるべきである[25]。しかしながら現状の逸機の代わりに、雇用されている技術者たちは王立作業場での勤務から実地の経験を得ることができる。なぜなら、そこで使用されている様々な最新の機器は、民間の施設には期待すべくもない利点となっているからである。この経験も幾らかは無益に帰せざるを得ないが、同様に契約中に雇用を破棄すれば、技術者が政府の工場で現在得ている実務に代わりうる、有益な手段をみつけられることはないだろう。

技術の規定がより周知・遵奉され、産業がさらに奨励されれば、間違いなくより大きな利益が職人たちの活動度合と生産力から生み出されるだろう。あらゆる有益な推測に伴う困難や奨励の全体的な不足、職人たちが自由に使える手段の乏しさを目の当たりにしているため、これで各方面からの刺激がない産業が発展したとしたら、それは驚嘆するほかない。その一方で、もし一ヵ所に限定されず、そこここの産業で化学製品の製造が行われたとしたら、どうであろうか？そして仮に最も重要な新産業が数多く知られている場所でさえ、それらを探さねばならない現状をどう考えるべきだろうか？あるいは、ある程度の蒸気動力の利用や仕事の組織化、資本の集中、職人の名声が今もなお我が国の産業界の助けとなるにせよ、自然より特に我が国土と海に与えられた諸要素から国家が得た多大な利益は、ほとんど費用を必要としていなかった事実を我々が熟考するとしたら、どうであろうか？おそらくは実際に自らが否定し、眠りから技術的な再生のために目覚めるの待っているその運命を我々は仕方なく嘆くことになるだろう。

第９章　文学と科学――知的産業について

仮に人々の文明化度合いが天稟を持った人の数、加えてその行動や装いで判断されるなら、マルタは他の国に決して劣らないだろう。この意見は逆説的に聞こえるかもしれない。我々はよく無知を理由に責められるが、これは間違った考えであるだけでなく、無礼極まりない話でもある。いってみれば、文明化した世界から切り離され、長きにわたって書き言葉もその適切な手段もないどころか、とても前途有望な未来さえないにも関わらず、民衆の中から他国のそれを勝る割合で、非常に熟練し卓越さえした人物を生み出してきた小さな社会は、公平に評すれば、啓蒙や文明化と縁がないなどと考えることはできまい。

外見から判断したり、先入観念ゆえに妄信だと非難したり、あらゆる狭量な国家にいる大衆と混同したりすることは、民衆が哲学者になることを期待したり、筋道の通らない第一印象を

伝播させたりする人々の、ただの誤った論法である。別に弁明を求めるわけではないが、自身の長所によって栄誉を勝ち取り、地元だろうが海外だろうが自分の故国の面目を施す人々の数を考慮すれば、思うに直近で、我々よりも優れている存在はなかなかいないだろう。また文学や科学の世界でも我々が、有名な他国の人々と比べて我々の知性は劣等だからと責任逃れをしようとすることはない。

過ぎ去った年月は我々に同胞の燦爛たる記憶を思い出させる。キケロの賓客であったアウルス・リキニウスの時代から前世紀の始めまで、歴史は武勇や敬神、科学、文学の分野で有名な148名の卓越した人物たちの存在を刻み付けてきた。数年前にとても正確に編集された目録には、マルタ人作家によって書かれ海外の版型や注文の版型で印刷された、様々な主題の作品245点が掲載されている。そのうち120点が科学に関する題材を、59点が文学、８点が論争的なもの、58点が歴史に関する題材を取り扱っていた。そのなかの幾つかの作品はラテン語で書かれていたが、大部分はイタリア語のものであった。こういった文学作品は、なかには15世紀後半にまで遠く遡るものもあるのだが[26]、この島国で言論の自由が許可された時期に、それらは多くの人々によって手本とされた。以来、文学は長足の進歩を遂げてきた。くだらない出版物は無視して、この場にふさわしく、文学作品の長所を幾つか備えていたり、重要な問題を扱っていたりするものだけを考慮に入れると、近年の出版物は200点を数えあげることができる。そのうち40点が文学的な主題を、また30点が論争的な主題、50点が科学に関して、20点が芸術について、20点が宗教、40点が歴史に関する主題を扱っている。これらの多くは平均以上の出来栄えであり、残りは海外で著者の文学的な才能に関する名声を得ているのだが、そういった文学作品のみならず、新聞紙もまた絶え間なく発行されている。半世紀もない間に新聞や定期刊行物といった90紙が島内で出版され、現在も22紙だけは残っているのだが、そのうち英語で書かれているものが４紙、マルタ語が４紙、残りはイタリア語で書かれている。これらの短命な出版物の多くは、限られた流通のために貧弱な支援しか得られないせいで、かなり短い期間しか存続しないのである[27]。

住民たちはしばしば無学で進歩や精神的な向上に無頓着だといわれなく非難され、この小さな島国の知的産業もそのように思われてきた。確かに実学的な教育が不足してはいるものの、他の章で不満を呈したように、人口16万人のなかには、公立・教会運営・私立の170校に通う１万３千人の児童がおり、ひとつの総合大学、二つの講堂、二つの単科大学、三つの神学校が若者たちの指導・教育のために開設されている。また、様々な国の科学や芸術の雑誌を定期購読している三つの立派な図書館が存在し[28]、52店舗の本屋と文房具屋が島社会の中で首尾よく生き残っている。そのうえ、絶えず外国人とも交流があるというのに、そのような社会の人々が学問に無関心だとどうしていえるのか、我々は理解に苦しんでいる。よく我々への非難となっている無関心といういいがかりをもっと上手に退けるためではないにせよ、我々はこの国の知的な文化が収益の上がる商売に転じることがめったにないという事実を見落すべきでは

ない。真理や美への愛情と探求は、他の地域と比べ、この地では生きる術としてより非生産的であり、特に知識の習得が物質的な欲求を満足させるように思われない場合には、その傾向はより強くなる。多くの人は修行して商売で財を成すのであり、もし知的職業の修練で財を成す者がいたとしても、それはごく少数である。したがって知的文化は我々の間で、常にとても魅力的というわけではない。既に述べてきたように、多くの人々はより物質的な利益を提供してくれる産業を選び、それ以外の人々も不承不承、自身の才能を犠牲にして、文筆業の魅力を放棄し、投機や肉体労働から生じる利潤を求めるほうを選ぶのである。

第10章　芸術分野――考慮すべき点について

さて、我が島国における優麗典雅の水準に関する短評を加えた、この素描を終わらせることにしよう。もとより趣きを目指すものである芸術分野は同時に、産業の重要な付属物であり、したがって考慮に値するものである。ここでは、我々の間で非常に流行した芸術の分野についてのみ、言及すべきであろう。豊富で利用しやすい資源を授けられてはいるものの、諸目的を成し遂げるためには、国家にはより良く、より正しいシステムの構築がいまだ期待されている。

建築学は、非常に多くの他分野が依存する学問ではあるが、当地では進歩した状態にあるとはとてもいえない。一流の建築家たちにより建てられた壮麗で豪華な建物と比較して、この点に関する最近の企ては、いってみればふるっていないのである。もしかつては採用されていた様式をけなすのが妥当だというのなら、建築物のまずさや軽視された空間的な無駄のせいで、我々は確実に、威厳ある壮麗さの概念や建築物の信頼性、そして寺院のような堂々たる建築物の、特別の目的に適していて、それに必要とされる設計の美しさに到達できることはまずない。有能で経験値も高い監督[29]の指導で作られた公共建築物が、今日にふさわしい優美さを兼ね備えると同時に過去の名声と比肩し始めたのは、ほんの最近のことである。ただし昔ながらの様式をいまだ維持している民間建築物はしばしば、調和の法則と芸術センスの良さに背いているともいえる。これらの欠点の全てが土木技師という専門職を当地で訓練する側に良質の審美眼と技術が欠けているせいだとは、必ずしも限らない。建築技師の計画が地主の当てにならない気まぐれで妨害されないとか、芸術家の独創的な考えが経済的な要因から破棄されないというのは稀なことである。習慣的で伝統的ではあるが、古びた気質は自身の方法論を押し付け、気が利いていて有益な新案をいともたやすく却下したうえで、誤った昔ながらの手法を頑固に押し通すのである。

建物の建築を取り締まる規則を作らない限り、あらゆる奇矯さや無節操が黙認されてしまう。あるいは当地は、各建物が独自の設計や外観をもち、しばしば繰り返し用いられるせいでその路線から外れることが非常に困難という、様式の単調さに陥った雑多な建物を有する、世界でも類をみない場所になっている。そのため、不格好で不必要な装飾様式の採用が、設計の簡素

さや調和の遵守、また建物の各所に割り振られる決められた比率によってより効果的に得られる優美さの先触れとなることを期待されることになるのである。

建物の外観や形状に関して、芸術または適切な設計の理論が普及することはめったにない。本質的に文学のように扱われるこの芸術も、いわば自身の文法と論理を持っているのだが、曇った審美眼や単純で不出来でさえある複製品・模造品に期待できないのと同じく、我々は科学と文学に不案内な建設者に期待することはできない。無学な建設者は、彼のコンパスと設計図を使って、新しいものを何も生み出せないし、発明も夢のまた夢ではある。しかしその一方で、あらゆる種類の知識を集めており、時には幾つかの規則を別にすれば賢さに大差ない建築家を彼はまごつかせることになるのであり、実際にそのような例が一部の人々には知られている。

民間建築物の内部構造は地主の意見、もしくは彼が手に入れたいと望む便益に大きく左右されるのであり、だからこそ、これらの点を建築家たちは建物の信頼性と衛生設備が許す限りにおいて満たす設計をしなければならないのである。住宅の安全性は極めて基本的かつ重要な問題であり、公衆衛生官による民間住宅の点検を実施すべく発布された法律の動機となったにも関わらず、この問題は昨今まで非常に軽視されてきた。まだこの法律の条項は完全に認められたわけではないが、それが地主たちに対して実用的な考えを与えている。住宅の重要な欠点のひとつは、主に水気を吸収しやすい石の性質や部屋の不十分な通気性に起因する湿気にあるが、幸いにもこれらの欠陥には現在、申し分なく注意がなされている。

軍艦の建造は我々の間ではかなり進歩したものであった。実地の経験は本当に素晴らしいので、そのことが理論的な知識の欠乏を埋め合わせたし、建造時の規則も完璧に周知されていた。その時のために巧みに育成され、地中海で見事な帆船を進水させてきた造船台を用いて軍艦を建造できる船大工や技術者を我々は有しており、彼らの義務感や信頼性、精密さ、迅速さにより、建造された軍艦は一流の船舶とみなされてきた。しかし、どこでも見受けられたことではあるが、蒸気による航海が建材としての木から鉄への転換をもたらした。それによって、以前から有名であったこの素晴らしい地元産業は、現在は小型ボートの建造程度に限られてしまい(30)、その意義を完全に失ってしまったのである。

特に史実に基づくテーマを描くとき、主にローマで技法を習得した芸術家たちは当地では常に門弟たちを得てきた。彼らは自身の作品のおかげで、栄誉という称賛すべき記憶を今も残している。現在の状況下では幾分かの気落ちもしているかもしれないが、本島が彼らの才能の錬磨用に、土地の広さが非常に制限されていること以外なら何でも提供できるので、この芸術で有能な門弟たちの数が減少しているということはない。彼らは主として宗教的なテーマを描くのに雇用され、概してその制作物は敬虔な人たちの僅かな寄付金のみで補償されている。彼らも作品制作において自由ではない。なぜなら芸術家の独創的な考えに口出しし、完全にひっくり返す雇用主がいるからである。とはいえ、このことは芸術家の独創的かつ自発的な考えを、時には彼ら自身の熟達を証明し、称賛によってこの素晴らしい芸術の衰えた評価を高めること

から排除するものではないのである。

写真術は現在では非常に普及し完成の域に達した技術であるが、その発明により、肖像画や衣装画、風景画の産業は他国におけるのと同様、当地でも著しく衰退してきており、近代的な油絵風石板印刷法がそれにさらなる拍車をかけている。何しろ太陽によって生み出されるため、売り出される絵画に悲惨な価格をもたらすことになる、この機械仕掛けの絵画の類による急速な進歩は、絵描きという熱意ある手作り産業に対する深刻な妨害である。無論、これらの発明が画筆の魔法を凌駕しているわけではなく、写真は実物を魂のない現実で複製するというよりも、むしろそのテーマを選択し結びつけているのである。才能や研究、発明の助けを借りずに使われてはいるが、それでもこの新しい技術は、美的感覚で構成された芸術を除いて、あらゆる栄誉に浴した古来の芸術に必然的に由来しているのであり、様々な肖像画では創意を評価する権利を持っている。

したがって、発明や創作に向けた燃えるような創作意欲をはっきりとみせている幾つかの作品を例外として、この芸術の現状は概して過去のそれよりも劣っていると考えられる。この意見を思うのは大抵の場合、それが理論的な知識と詩的な着想に欠けているからであるが、芸術の現場を支配する創作意欲は大概、真実の退屈な印象から外れない、内容の乏しさによって置き換えられる。芸術家の豪放さはそのうち衰え、その不毛さや画家の腕前のうすら寒い証拠に関する現実以外、何も残らないのである。

1881年に行われた国勢調査が示しているのは、この種の立派な芸術を任せられる人々がたった40名しかいないことである。

実のところ有能な芸術家たちがいなくなった彫像術は現在、明らかに平凡以下である。ノミは数名いる飾業者たちの管理下では単なる用具にすぎず、実際に彼らは、緑葉を真似た葉飾りや渦巻文様、懸華装飾、同種の他装飾を雑に彫刻することさえできない。造形美術は当地ではよく知られており、その意味では、これまで行われた試みが必ずしも不首尾に終わるとは限らないのである[(31)]。

全ての芸術分野のうち、音楽は当地で最も進んだ分野である。その才能で不朽の財産を遺した巨匠たちを輩出してきたため[(32)]、音楽は我が国では彼らからの継承物として残されてきた。それ以来、我々は常に和音と旋律の魅惑的なこの芸術に関して、名高い教師たちを誇りとしてきた。現在、マルタには傑出した作曲家たちと、近代派の巨匠たちにも引けを取らない各楽器の教師たちがいる。音楽への関心と愛情は、この島国の下層階級の心にすら、生まれつき備わっているものである。目下、270名以上の人々がこの職業に一身を捧げており、その努力があまねく奨励されている。そして近頃、18の音楽協会が諸都市や村々にいる大勢の労働者階級を集めて設立された。優秀な指揮者のもとで、これらの市民楽団は一般の人々に気晴らしの手段を提供し、同時に進歩に対する起爆剤や刺激として役立っているのである。

〔原註〕

（９） マルタ産業博覧会は国民に向けて1864年４月26日から開催され、翌６月20日に閉幕した。出展者の数は567名で、展示された様々な出展品の数は3,037件に達した。実物の動物や果物はこの博覧会には出品されてはいない。入賞品には賞状と、特別に博覧会用に鋳造された金・銀・銅のメダルが与えられた。10作品が発明の斬新さか、様々な技芸の熟達度から一等を授与された。二等はその卓越した技量に対して162作品に贈られ、また60超の出典品が三等を受け取ったことで、総計332の賞が与えられた。この博覧会（開催された最新のもの）の批評的な記録は、『1864年のマルタ産業博覧会の回想録』の題名で、医学博士のＮ・ザミット教授により博覧会のすぐ後に出版された書籍のなかにみつけることができる。

島内に設置された常設の博覧会会場は地元産業に大きく貢献することだろう。会場使用に公官庁の援助にやむなく頼ったり、そのせいで少しの間でも商売の妨げになってしまったりするよりも、産業展を開催するために常に確保できる適切な会場を持っておいたほうが良いと思われる。例えば、訪問客は物珍しさにひきつけられるだろうし、近隣の住民は関心をかき立てられることになるだろう。また工業製品の陳列室は技術教育の手段を確認し、競争を促し、数多くの品々を見物し購入できる、いわば市場となるだろう。店舗内で作品に埃をかぶせたままにする代わりに、職人はこのようにして自身の作品を衆目と批評と公の審判にさらすのである。このような方法で、技術はその長所や短所、不足を明らかにするのであり、このステップが進歩と熟達に向かう道を拓くだろう。この目的のためのささやかな建物は大して費用がかからないだろうし、空地に建てられるかもしれない。ただし他の目的で必要とされることはないといっても差支えない。いずれにせよ、それで進歩や前進のために、産業に関心が向けられることになるだろう。常設展は教育と知識を生み出し、幾多の生産者の間に対抗心と競争を、そしてすぐに明白となる良い結果をもたらすだろう。

（10） この国において民衆教育は進歩してきている。半世紀前まで、知的修練は幾つかの学校で教えられるのみであり、そのほとんどは限定的な教育課程を聖職者の指導下で行うものであった。この教育は簡素ではあれ、堅実で手堅く、のちに人々にとっての誉れ、国にとっての名声となる多くの人材がこれらの学校で早期教育を受けてきたのであった。昨今、多くの公立・私立の学校が町で開校され、その動きが国中に広まっている。学校や専門学校、神学校が、公私合わせて既に173校を数えるまでとなっている。これらの学校に通う男女両方の生徒たちの数は明確かつ継続的に増加を示している。1842年には生徒数は3,833名を上回ることがなかったのに、その40年後には既に１万2,390名に達し、最初の人数の３倍以上になっている。このように、1881年に公立・私立学校に通う生徒数の増加は、夜間授業や日曜授業に集まる大人たちを除いても、既に1842年の数値を8,557名の差で越えた。最近の国勢調査の時期から今日までに、学校に向かう生徒の集団は人口の増加と同様の割合で増え続けている。

しかしこれだけでは十分ではない。あるがまま貞節の大きな危機に陥った不幸な少女たちを集めて訓練し、教育すべきことが強く望まれる。みっともなく不名誉で不幸な彼女らの親たちに対して、社会にとっての将来的な心配に備えて、少女たちに教育を授けるべきだという考え方をうえつけることよりも、より精妙で有益な考えはほとんどない。この点に関して、真に高貴な博愛心で現在の問題の空隙をみとめた、高い感性を持った女性、ヘリー・ハッチンソン夫人（Mrs. Hely Hutchinson）［当時のダナモア伯爵の妻か。ヘリー＝ハッチンソン（Hely-Hutchinson）家はイギリスで保守党政治家を排出したアイルランド貴族］は、それまで軽視され、手荒く扱われ、困窮で悩み疲れていたこれらの生き物たちに慈愛に満ちたまなざしを投げかけ、私財を投じ、最も人口の多い村のひとつでこれらの不幸な生き物のための救護院や教育のための学校、彼女らの貞操の防護会を設立している。既に40歳を越えたこういった困窮の犠牲予備軍たちは、教育され、働く支度を整えるためにここに集められるのであり、それが何よりも彼女らの人生を解放するのに役立つ。そしてそれとともに、他の点では彼女たちを拒絶し辱めるかもしれない共同体にとっての有用な構成員に、彼女たちはなれるのである。

同様な憐憫の行為は、あるいは道に迷った人々を善の方向へ矯正するために発揮された熱意もさることながら、公の感謝を受けるに値している。いうまでもないことだが、つまりは予防の方が治療よりもよほど良いことなのである。

(25)　現在のところ、王立造船所で雇われている技術者や労働者は2,773名強である。真の意味で、近頃増えてきた作業場とは区別すべき「工場」に関しては、ジャコモト兄弟が経営するマッチ製造所がこの称号を受けるに足る、たったひとつの施設である。ほとんどは年端の行かない年齢の労働者階級65人が働く各区画では、10馬力エンジンを搭載した23基の機械が同時に稼働している。この工場で生産されたマルタ産のマッチは、これまで考案されたあらゆる種類からなり、その優れた製造法はそれゆえに既に国内・国外の両方で十分な需要を獲得している。

(26)　例えば、バルバラ・P・M・フィリポ［史料にはBarbara P. M. Filippoと記載されているが、著作名からみるに、Filippo Del Barberiのことか。バルベリのフィリポは15世紀後半に生きたシラクサ出身のイタリア人神学者で、1481年にマルタ・ゴゾ両島の信仰審問官に任命されていた人物］の著作『エウセビウスとヒエロニムス、聖アウグスティヌスの間における不一致に関する論考（Tractatus de discordia inter Eusebium, Hyeronimum et Aurelium Augustinum）』が、1481年にローマでリガーミネのヨブ・フィリップスにより出版された。

(27)　1839-1860年の間にマルタで公刊された新聞紙の数を示した表

（表１） 1839-1860年の間にマルタで公刊された新聞紙の数を示した表

	分野	内容	使用言語	新聞数
1	政治関連	国内外の政治、論争、討議、事業、公的な要望など	イタリア語 英語 マルタ語	36紙 ７紙 １紙
2	文学関連	詩、小説、人生描写、歴史、風刺、芸術	イタリア語 英語 マルタ語	21紙 ０紙 ３紙
3	科学関連	医学および法学、農業	イタリア語 英語 マルタ語	６紙 ０紙 ０紙
4	宗教関連	弁証学、批評論、論争	イタリア語 英語 マルタ語	６紙 １紙 ３紙
5	商業関連	相場、財務、商売運営	イタリア語 英語 マルタ語	５紙 ０紙 ０紙
6	通達、告示文、政府の布告		英語＆イタリア語	１紙
			総計	90紙

現在、これらの刊行物は次のように編成されいている。

（表２） 現在の刊行物数を示した表

	分野・内容	使用言語	刊行数
1	政治＆論争関連の新聞紙	イタリア語 英語 マルタ語	４紙 ３紙 １紙
2	文学および科学、芸術関連	イタリア語 英語 マルタ語	５紙 ０紙 ０紙
3	商業関連	イタリア語	２紙
4	官製新聞	イタリア語＆英語	２紙
5	宗教＆政治関連	イタリア語 マルタ語	４紙 １紙
		総計	22紙

上記のうち、日刊紙は３紙のみである。

出版の自由が認められる以前に出されたマルタ語出版物目録に収録されている著作245点と最新の出版物200点のうち、その多くが取るに足らないか、大して重要でない刊行物である。マルタや他の場所で出版された新旧の刊行物のうち、幾分か大部なものとしては70点を数えうるのみである。

(28) ２つの公共図書館（軍用の読書室を除く）には５万3,768冊が所蔵されているが、そのうち、定期刊行物34冊を含む４万7,635冊がマルタの公共図書館の、定期刊行物６冊を含む6,093冊がゴゾの公共図書館のものとなっている。ここ８年の間に、これら２つの図書館は3,763冊を補充してきたが、その内訳はマルタの公共図書館が2,674冊［ママ］、ゴゾの公共図書館が1,092冊［ママ］であった。

この合間に、ヴァレッタの図書館における利用者数は２倍近く、つまり1878年に４万7,412人だったものが1885年には８万9,731人になった。ゴゾでは同期間の利用者数が著しい減少を示しており、その平均人数は１万6,320人にとどまっている。

これらの公共図書館に所蔵されている著作物は以下の割合である。

（表３）公共図書館にある著作物の使用言語

	言語	マルタ	ゴゾ	合計（冊）
1	東洋諸言語	438	18	456
2	ラテン語	3,831	363	4,194
3	イタリア語	7,425	1,794	9,215
4	英語	3,554	318	3,872
5	フランス語	7,210	176	7,380
6	スペイン語他	1,030	10	1,040

(29) ここで言及されているのはＥ・Ｌ・ガリシア師（Hon. E. L. Galizia）のことである。彼は名教官にして、土木技術者、立派な近代的墓地のひとつやその他の土木工事を設計した公共事業の監督者であり、また我々の建築物のために適切な設計図を継続的に提供し、彼の巧みな指示で遂

行されたあらゆる業務に芸術的なセンスを披露している人物である。

(30) 海軍の造船技師の間では、一流の軍艦設計者であったモーリン（Maurin）に次いで、ジャーマン＆ボニチ（German and Bonnici）兄弟商会のグレゴリオ・ミラビトゥール（Gregorio Mirabitur）が昨今、名声を築きつつある。のちに後者はコンスタンティノープルとエジプトにある政府管轄の造船所に雇用されたが、そこでは彼によって同国家の海軍のために何艘かの艦船が建造された。

　現在は帆船が鉄船に道を譲り、その結果として建造工廠が姿を消したので、グランド・ハーバー［首都ヴァレッタと対岸のカルカラに挟まれた湾のこと。ヴァレッタ港とも。聖アンジェロ砦などがある］の海岸には、ナタール・ザミット氏（Mr. Natale Zammit）の管理下にある広大な作業場と鋳物工場の近くに会社をもった、有能で企業的精神に富んだ人物、パスカル・グレッチ氏（Mr. Pascal Grech）が経営する私的な工廠だけが残っている。

(31) ダルマニン商会はマルタの外、特にイングランドで著名であるが、それは絶えず仕事をそこから受注しているからであり、ゆえに高く評価されているのである。商会の一員であるチャールズ・ダルマニン氏（Mr. Charles Darmanin）はしばしば、うまく造形美術や彫像に関連した仕事に雇用されている。

(32) かつては、例えば絵画芸術の分野では、Vivier や Arena、Erardi［マニエリスムもしくはバロック画家であったピエトロ・エラルディ（1644-1727）やその兄ステファノ（1630-1716）、ステファノの息子アレッジオ（1669-1727）のことか］、G. Niccole、Rocco Buhagiar、Zahra［ナポリ風のバロックスタイルで多くの作品を残したフランチェスコ・ザーラ（1710-1773）か］、Arnaud、Grech（ロンドン在住）、Bartezen や Gauci［19世紀にイギリスで活躍した版画家マキシム・ガウチ（マッシモ・ガウシ）（1774-1854）か］、Xuerer Busuttil、Hyzler 兄弟、Schranz、Cauana、Madiona らがいた。建築の分野では Cassar［聖ヨハネ騎士団の常駐技師であったジロラモ・カサール（c. 1520-c. 1592）か］や Cachia［土木技師にして考古学者でもあったアントニオ・カチア（1739-1813）か］、Dingli［数多くの教区教会を設計したトンマーゾ・ディングリ（1591-1666）か］、Crognet、彫刻家の Troysi、Mallia、Calamatta（ローマ在住）、Desmares（パリ在住）、Farrugia、その他大勢の名匠がおり、現在では画家に Bonavia［製図工でもあったジュゼッペ・ボナヴィア（1821-1885）か］や Bonnici、Cali［ナポリでジュゼッペ・マンチネリに師事したジュゼッペ・カーリ（1846-1930）か］、Micallef、Calleja、Barbara、Pisin、Cortis（ローマ在住）、風景画家の Cremona が、発展している音楽の分野には同じく、フランス音楽を革新した Niccolo Isouard［ナポリなどで学びフランスで活躍したマルタ人作曲家ニコラ・イズアール（1773-1818）か］やヨーロッパ中で有名な Azzappardi がいる。そして現在のマルタには、宗教音楽で名をはせた Bugeja や Paolo 博士、宗教音楽・世俗音楽で著名な Antonio Nani 氏、Galea、Malfiggiani、Vella がいるだけでなく、最近になってこの種の芸術で頭角を現し、同胞の間でそれが噂になっている Burlo や Curmi［イタリア人作曲家ニコラ・アントニオ・ジンガレッリらに師事した、マルタ人作曲家・ピアニストのアレッサンドロ・クルシ（1801-1857）か］、Spiteri、Bartoli、Mallia、典則曲の Frech 博士、その他諸々の人びとがいるのである。

（みずた　とものり　歴史学科）

2020年11月９日受理